



愛知県文化会館

505264

A287
卜
69

河村書藏

五十四

五十四

岩淵存活集卷之三



目錄

一 竹下氏公評紙生之事

一 今川義元為人賢評紙事

一 師子代公百音為病下之事評紙事

新撰存活集卷之三

一 卷之三 師子代公百音為病下之事評紙事

在りては沙弥は持任持母を以て内膳具敷に
 候へりて流涕子と云はるりの在りて一戸某園
 と云はる一親父はともも已まじと云はるり中取見
 申す同玉ツル中取見と云はるり子と云はるり
 如くは流涕子と云はるり流涕子と云はるり
 と云はるり一は流涕子と云はるり一は流涕子
 と云はるり一は流涕子と云はるり一は流涕子
 の名失主

一 兼行の殿の流涕子と成任の事

兼行の殿の流涕子と云はるり一は流涕子
 河内殿十一郎の流涕子と云はるり一は流涕子
 兼行と云はるり一は流涕子と云はるり一は流涕子

櫻の子と云はるり一は流涕子と云はるり一は流涕子
 と云はるり一は流涕子と云はるり一は流涕子
 又久し流涕子と云はるり一は流涕子と云はるり一は流涕子
 兼行と云はるり一は流涕子と云はるり一は流涕子
 のこと久し流涕子と云はるり一は流涕子と云はるり一は流涕子
 一は流涕子と云はるり一は流涕子と云はるり一は流涕子
 兼行と云はるり一は流涕子と云はるり一は流涕子
 兼行と云はるり一は流涕子と云はるり一は流涕子
 兼行と云はるり一は流涕子と云はるり一は流涕子

の感懐小ならず我未だ石はせんとそのくぬれ
まへ所々の大定老んおぬるる危ふくは言ふは危
中よりや 家康のふらふぬれよりと行る下
後をふり中くくわぬのぬれくく言序我くの
う言とハトととやえぬくも順ありうらむむ
美言へ言を居り上と後美言の言序も
讀ねへ入る美言も又言毎言も人思ふ言
語の言序へ入る言序 家康言序上言序され
美言も言入る言序の言序

武田信玄病歿しり

一 元正元年四月十二日武田信玄病歿しり

り 隆松言序下りて中身のそとに 家康
後く又信玄美言の言序なれは言序は言序
の如くに言序なり下り大言も言序は言序
家康美言の時々の言序の言序に言序と
言序の言序の言序の言序の言序の言序
我くも言序の言序の言序の言序の言序
の言序の言序の言序の言序の言序の言序
いなり 家康の言序の言序の言序の言序
言序の言序の言序の言序の言序の言序
言序の言序の言序の言序の言序の言序
小利の言序の言序の言序の言序の言序
とやぬ美言の言序の言序の言序の言序

若くは一と稱大なる住りも亦あり候上杉の専ら
若田左衛門初く陣取兩軍より下流に家取
の老ふ住居あり候事平六郎の陣取の幅も
せよと陣取の陣も中く陣取の陣取の陣取の陣取
此の大名の陣取陣取の陣取の陣取の陣取の陣取
陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取
地形より陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取
大者所と云ふ初不取費陣取の陣取の陣取の陣取
の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取
あり之陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取
陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取
陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取
陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取

此は若くは一と稱大なる住りも亦あり候上杉の専ら
若田左衛門初く陣取兩軍より下流に家取
の老ふ住居あり候事平六郎の陣取の幅も
せよと陣取の陣も中く陣取の陣取の陣取の陣取
此の大名の陣取陣取の陣取の陣取の陣取の陣取
陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取
地形より陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取
大者所と云ふ初不取費陣取の陣取の陣取の陣取
の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取
あり之陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取
陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取
陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取
陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取の陣取

考見及に今出舟の御成候へくと云ふ存候事不共書
承付候に時候より御成候の御成候と云ふ候事
大抵老の御成候事候成候事候事

岩間夜話集巻之三

目錄

- 一 朝鮮小汗征伐 四府公汗征伐の事
- 一 中多代名馬の事
- 一 四府公汗征伐の事
- 一 中多代名馬の事
- 一 中多代名馬の事
- 一 中多代名馬の事

岩園夜話集巻之七

朝鮮公行征伐の事

一 本國を去る朝鮮公征伐の別 家康もも衆集
 各藩領の諸小津兵陳はたつたが朝鮮征伐の軍
 勢も亦も亦陳も退居か 二 本國を去るの思ひも
 強く能の征伐の事 果敢の子と能分はるは此
 子家公の所身入 家康公在 本國利家藩より
 御と相きのいも亦の退居は勿進も亦も亦
 母りも亦口ゆけり申の軍勢も亦大朝鮮兵陳
 と退居も亦各州の事も亦も亦も亦も亦も亦も亦
 のは余も亦亦の然れも亦も亦も亦も亦も亦も亦

わつて今をいふは、自曾経海す。一徳を利家氏脚
勇人の國たす。一吾朝の成い、忠臣沙ゆり、い何く氣
をも、お秀名渡海する能く、不羽報せ、他い少の
中大用と、肩何不押入、人い、悉下して、何て、田
余明て、時の君ふ、代は、人、大用、主の王と、なり、一、事、一、何
の疑、主へ、く、と、い、と、大、朝、不、度、云、一、の、一、利、家、氏、成、も、後、の
ゆ、く、人、主、未、未、の、另、此、世、中、た、り、也、今、何、く、不、時、代、小、生、れ
是、主、主、成、名、と、お、さ、ん、て、一、の、印、を、お、海、中、に、と、置、人、が、身
は、主、身、一、く、ら、い、中、に、置、之、と、何、家、原、云、所、持、能、从、の、如、い
一、利、家、氏、何、あ、人、に、向、り、せ、あ、一、杯、高、原、原、何、有
の、君、と、も、お、年、の、以、て、一、物、多、の、部、不、出、分、可、と、お、い
く、戦、中、と、い、く、も、何、身、置、之、の、名、と、云、く、一、事、も、一、事、と、い

何、身、今、及、右、國、清、自、身、能、之、得、ま、て、一、と、云、い、也
所、涉、海、海、あ、り、と、一、中、身、を、原、と、一、何、り、田、中、の、田
さ、と、一、と、一、般、一、志、合、上、と、ま、ま、は、は、海、あ、わ、く、い、物、な、何、能、
あ、り、り、夫、色、交、還、方、て、仕、と、一、に、一、く、お、さ、し、何、出、ま、し、行、く
淺、程、深、と、未、定、の、進、と、お、く、一、是、い、信、川、原、の、也、及、此、お、海、
以、向、秀、吉、公、の、清、心、身、に、振、り、入、り、う、れ、あ、や、あ、の、秀、吉、身
と、い、や、ら、な、必、お、信、之、は、長、き、交、り、と、一、右、原、ゆ、を、あ、い、大、に
主、身、お、り、一、己、信、公、の、秀、吉、振、り、分、り、と、一、い、何、事、と、ま、
る、お、海、と、云、一、と、一、斤、藤、押、之、ま、ら、う、と、一、海、公、お、り、も、お、る
す、と、一、と、一、く、不、作、相、能、大、明、の、名、と、い、日、中、一、對、一
何、在、の、科、と、は、お、引、ま、は、り、お、す、一、と、一、右、原、お、い、右、原、之、事、
い、之、田、中、の、法、軍、常、行、能、と、海、と、一、と、一、陳、和、一、い、ゆ、い、

を根幹の不用にくくす。以て其のこゝに、
玉中の産業も、或は彼等のそ徳法人のなりけり。其
少いものなり。一石如松葉を不物と云ふ。又、其、
所、彼、ゆ、利、家、氏、の、こ、こ、に、
形、其、の、早、物、を、き、う、か、こ、
中、の、し、こ、ん、か、を、
玉、の、
所、
人、
と、
の、

入、
角、
利、
と、
所、
人、
の、

和名此は鳥のこゝに、

いふ礼神はよく門近く加原の二種天山谷を海
とくは物かいらく 昔年にもうしはくし高所河原之

大河実少軍法切後を伝ふ事

一 乙未六年戊子三月武田勝頼は在在言伏居(御出)
りし事 是言常より所出するの妙は大河実少は左門
錫大信愛少吉河軍法と云ふ言河原中と先とと誠
—— 信頼の経をもつて我と云はれふと信河原中
達—— 以の外河原を獲たり—— 今信と云うの事あり
はぬぬと云ふ事なりと申す事なりと云ふ事なり
と云ふ 是言常より所出するの妙は大河実少は左門
錫大信愛少吉河軍法と云ふ言河原中と先とと誠

左門世傳少吉河原中と云ふ言河原中と先とと誠
錫大信愛少吉河軍法と云ふ言河原中と先とと誠
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり
と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

岩崎公孫集卷之三

目錄

- 一 經末冬令即 海軍中上九事
- 一 丙辰年 海軍見之事
- 一 壬辰年 海軍感事
- 一 申多佐官之 海軍感事
- 一 海軍中上九事

一 相承録の所載ニ事

一 信康公乃矣沙屋系ニ事

一 信康公乃生害ニ事

忠國抄活葉卷之三

信康公乃即所承云云ニ事

一 家康公乃所載小沙屋ノ事乃信康公乃所載
上使乃有之時所池定常ノ思乃信康公乃所載
輕ノ下生ノ實の中ノ故ノ事乃信康公乃所載
乃輕ノ事乃有之沙屋乃有之料理中ノ事乃信康公乃所載
公乃所載乃信康公乃所載乃信康公乃所載
人ノ事乃信康公乃所載乃信康公乃所載
事ノ事乃信康公乃所載乃信康公乃所載
事ノ事乃信康公乃所載乃信康公乃所載
事ノ事乃信康公乃所載乃信康公乃所載

と推し、蓋し新官も由は條々、
沙汰は推し、済む者も少く、
口乃輔を、
可為る久し、
も如く長し、
少くも有る、
服差を核む、
少くも有る、
沙汰近く、
家康公、
沙汰近く、
家康公、

と推し、蓋し新官も由は條々、
沙汰は推し、済む者も少く、
口乃輔を、
可為る久し、
も如く長し、
少くも有る、
服差を核む、
少くも有る、
沙汰近く、
家康公、
沙汰近く、
家康公、

同義某は沙ヲ見、

一
沙汰近く、
世間、

か身より其言なりを初夢中乃面ふ不知
か語とてふ事小形くあり言の初形汁はく
と人馬鹿具乃嚙もなると夏更に何と存乃子
作をして自ら辛苦と銘申す便の傍貴之今
此内分と種一記業を一一く歌ともしは種く母
とせよ我れ人と常小若常一一く道不樂とを
折小の折るる状とありゆうく種とくはれ
折儀字を之ハ道蘇家ハ及中ハ供の詠人兼
之吾国を流一一帯とて好も也

在家依傍とて河内事

一 家康公侯松乃城小河原村或夜に多行馬
を外掃とて三人所用の儀を沙堂へ置れり不

其月其人河原少く鼻紙袋をゆ一一色屋事や成
ては封と切く河原は其の家 家康公河原に或夜ハ
河原を以て河原に其内く好角と書き書き書き小は伴
沙堂入り下成とて河原不入りゆゆとて種とてハ
寄物有り入ると大蛇乃沙堂に依傍とて山若まら
種とてゆせよとて河原に迎敷く種談話をその
と河原に在り不取流とては也ハ其等たる候と
く河原遠く中ゆせよとの正言ありは河原居りは
道頭とてハ河原を道頭と依傍とハ亦の用
ゆゆ河原居りゆ 家康公に似るハ河原の
考之候ゆせたる候ハ河原ハ河原と河原居り
河原小ハ河原居り河原居り河原居り

此建形水より半世間少くは例少くは此等の位より
位長今十坪の辺に小川を引く御遺の殿に朽
木等たなくは位長の為小一倉を築て此を位
寛ノ位長小向く之動乃味を近行するも其
御多しと位長を止す御遺の位長と

信康公可矢河差界之書

一 天正七年八月勝頼と榑園交表少く河對陣乃半
有るは信康之河物思ふは 家康公は是後合戦
沙始より下向くと信之休場所無き河沙勝利不
難成と河控を之に合戦ハかく河飯陣外其
後家康中は信長は 信康亦可矢河差界
と云ふ之少く信長は信分列少くは信長は

敷と也

信康公河差界之事

一 天正七年外 家康不と云信之平信康河差
有るは成る河乃場を甲一兼を二役乃場は是
腹御半信天官の城有る小川は信長は信長
信康河沙花御不より有る小川信長は信長得乃
信長河の御不れ今更不中分乃は信長は信長
小川は信長は信長河の御之御運白とある信長は信
康は信長は信長河の御不れは信長は信長河の御
有るは信長は信長河の御不れは信長は信長河の御
信長は信長は信長河の御不れは信長は信長河の御
信長は信長は信長河の御不れは信長は信長河の御

く口と稱す下ノ官角となく是より其時別延る後
所苦痛多かりたる所なり夫方之誠清公傳中より
信康公六月二十八日十月十日生害之信康公
之幼少子同甘乳之誠清公素伯門身小達
家康公之信康公之誠清公武節者外其信
康公之幼少子同甘乳之誠清公素伯門身小達
道長公之信康公之誠清公武節者外其信

忠剛 後信康卷之四

目錄

- 一 長久寺所合額所相信之事
- 一 酒井金三郎始信之事
- 一 小保氏政の御對面之事
- 一 武田瑞頼生害時家康公所從飯原事
信長公爲明智の御對面事

岩淵夜宿集卷之四

長久寺合發河内宿し事

一 家康公漢松、河内宿し、夜中、沙舟、
先年長久寺乃一観小観小観た、秀次、大軍の
位を退く一観小観小観、是れ柳宗久次、
多智の備、二百二乃、敵軍と、切、
乃秘差の侍、大將、武、池田、
首を、思、
来、
処、
即、
小、

陣代を夜に小幡乃誠を取んと用之を致すに夜
其方違ふ様少く秀吉乃海へ移しとをす様子を
伺ひしに辰部百乃一軍踏破と云ふ所は是れなく
申すにふしも我軍千小幡乃夜を破る乃を破
るに中夜軍に江掛あり何の事か入る
勝利ありと云ふ事なり 家康等も同
をせと猶自に夜の内小幡乃誠を破るに
小幡乃返り一隊を思ふに小幡乃誠を破るに
せしに中夜軍を夜田中乃陣へ江掛秀吉を必討留
るに橋りと考へくの違ふ又其是か否れ共軍に
の事なりと云ふに河陣小幡乃誠を破るに
決まらぬ目を見合果違河陣勅が漸有く語り

秀吉と必討留下すの意河陣か
いし河陣勝利小幡乃誠を破るに
備ゆと申す 家康は師より必討留下す
我軍は持参せし一船田中乃陣に人殺しと云
し河陣討ふと云ふ事と云ふと討と云ふ事
たすくも上層へ走せしゆと云ふ事なり
宜吉は小幡乃誠の合戦小幡池田之入と討は
是を人殺しと云ふ事なりと云ふ事なり

酒井金三郎信成之事

一 天二乃頃園車小幡乃誠を破るに
原より河井と申すに小幡乃誠を破るに
小幡有るに河井乃誠を破るに

子宗承よりハ威權の治一又京の東外上原の合
合乃ハ威小酒井同云云乃ハ威小酒井御智是有人
原ハ威小酒井同云云乃ハ威小酒井御智是有人
原ハ威小酒井同云云乃ハ威小酒井御智是有人
原ハ威小酒井同云云乃ハ威小酒井御智是有人

家康公乃ハ威小酒井同云云乃ハ威小酒井御智是有人
原ハ威小酒井同云云乃ハ威小酒井御智是有人
原ハ威小酒井同云云乃ハ威小酒井御智是有人
原ハ威小酒井同云云乃ハ威小酒井御智是有人
原ハ威小酒井同云云乃ハ威小酒井御智是有人

既トク夫夫不費石乃ハ威小酒井同云云乃ハ威小酒井御智是有人
原ハ威小酒井同云云乃ハ威小酒井御智是有人
原ハ威小酒井同云云乃ハ威小酒井御智是有人
原ハ威小酒井同云云乃ハ威小酒井御智是有人
原ハ威小酒井同云云乃ハ威小酒井御智是有人

ら七、一、百、張、連、立、位、之、と、云、く、清、書、の、入、り、上、意、と、甲、右、
見、く、飛、倚、の、儀、に、及、り、町、人、百、姓、を、皆、集、給、と、す、て、收、入、
と、出、入、一、千、石、を、清、地、沙、汰、有、之、相、小、條、家、より、人、教、と
差、向、甲、右、と、切、去、り、と、云、く、と、有、守、甲、右、の、一、百、人、氏、共、に、不
信、く、七、月、十、九、日、始、り、清、地、を、取、り、と、云、く、知、甲、右、元、と、小、條、家、
如、合、一、と、是、約、二、三、萬、石、有、前、三、大、目、公、田、小、倉、の、二、千、石、を、存
而、く、乃、せ、り、合、小、條、家、甲、右、元、勝、利、と、い、く、討、兵、不、の、を、清
鎮、中、力、分、上、條、相、長、月、小、五、り、甲、右、若、神、子、不、許、く、小、條
氏、政、と、涉、勘、津、有、之、也、
家、康、云、く、り、小、條、義、濃、と、氏、
親、方、清、書、と、と、是、り、く、沙、使、者、八、船、比、奈、公、田、市、清、書、
と、首、小、掛、峰、一、騎、也、仍、信、の、根、子、し、か、く、小、條、家、の、是、也、
又、道、寺、談、行、也、改、解、集、備、(一) 小、掛、く、く、大、吾、少、く、是、也、

そ、の、の、儀、あ、れ、川、尾、派、甲、右、小、五、り、故、由、
家、康、公、田、市、
及、小、條、家、元、馬、小、條、の、儀、以、合、し、れ、甲、右、(一) 房、取、れ、行
事、不、分、
次、意、を、相、傳、せ、給、ま、し、上、意、(一) 堂、く、く、と、云、く、の、好
合、不、許、く、八、日、時、長、位、通、り、を、是、り、以、方、存、在、馬、と、事、内
と、事、あ、り、茶、傾、分、(一) 小、條、其、上、を、易、上、條、致、し、と、以、後、小
計、入、る、(一) 小、條、若、原、志、川、尾、人、小、條、を、取、り、軒、曲、乃、云、
地、と、小、條、小、中、村、六、月、十、日、の、宣、判、森、首、と、い、ひ、給、ま、り、
故、由、
左、衛、門、家、康、と、し、を、了、教、と、く、人、小、條、(一) 改、清、書、(一) 月、工、五、年、未
子、川、親、の、若、甲、右、と、是、り、若、合、字、を、元、中、意、を、存、く、住、人、
清、と、と、上、相、又、甲、右、強、派、人、を、奥、川、尾、中、也、故、由、と、し、龍
就、可、
家、康、又、亦、住、林、の、上、を、悍、取、り、と、く、息、懸、と
親、川、尾、を、取、り、と、云、く、外、十、若、馬、と、云、く、持、甲、右、士、討、之、

〇〇 出家公乃進也其嘗美也道是乃保外ハ
 弟ハ分抱りあり居ハ仕長ニシテ頼守ト履ツルハ立
 人トハ神道説々也川原宮ニ去リシ使公ハ立依々也深
 津沙入ト在知人川原一衣ヲシテ其好知也弟ハ
 出家公ニ事ト信ト合テ知々也田家乃語信人徳川清ト
 未々々也津南也ト云々也其ト被下川原小宮ニセシト云
 侍名有之好々人ト云々也其のふ甘々也程々也
 といふ也 出家公乃表書をせんと計年 後ハ八侍
 百姓小宮少一人也其也一也月小宮被謝上言り
 石也下り也其僅の家見計を執り一々也後をそ居公
 中の其也のふ也一也一也其はも保神也 御も也
 依長地界也上之腕也乃境川左道也一也関東を控之也

今承り下々も其也の終を原くを入を其也
 取也也一也其也と云々也と云々也一也其也の

〇〇 小條氏政ハ所對面之車

一 天正十四年二月小條氏政ハ初々所對面也
 出家公より其也を政するハ其也川と隔てテ掛
 所目也ト其也 出家公云々作々也其也一也其也
 其也一也其也其也川と被々 出家公ト事ト終
 其也河舟也其也其也其也其也小條家之其也
 其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也
 出家公云々其也其也其也其也其也其也其也其也其也
 其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

河原君を小條氏也河原君の四伯也少く河原君を
 之とせしむる也此の世傳を義徳も同じく
 河原君の九郎也甲府小田原より小條氏も少く河原
 君の四伯也河原君より甲府小田原より小條氏
 少く河原君と少く河原君の四伯也河原君の四伯也
 上田乃志田近し一語小條氏の河原君也

岩間夜話集卷之六

目錄

- 一 二君矢朝之槍乃事
- 一 江若小谷城攻 家康公河原加勢之事
- 一 河原長公河原君見之事
- 一 河原合戦之事
- 一 河原君在河原之事

岩園夜信集卷之内

二君矢刺の擗く事

一 越前國清の河城下矢刺の擗法水統流と早世
掛り事と可成申 家康公は作流まが家亮中より工
事おし事く何處好意に是れは其後之擗法と云下上
と存存是れ擗は世間小穢なる大擗くははる難
事お入るは其と南付銀五の事もはるは河城中
小な擗法大河の擗く身一所要事も難事今も流擗
少流擗小は地而後と擗は事流は作流の擗と好は
一回小く事 家康公ははるは矢刺乃擗の事流
記録は是ありし事擗小は事擗小と擗く事
く日本中も擗く事と擗く事と擗く事と擗く事と

入乃其方分有移不位是を拂ひしり相さ山川の諸
軍にこと多ふしつちりぬけ南極の舟安んぬり相さ其
方移を相てい沙願分の百民慈感致し言ふは位是
も誠く小なりれ沙願中の侍も多くは百は移不
思台ゆらむとと角も沙願をさるる言ひ子相
る安んぬり相移易い沙願分の内亦くは依時
味はて全眼法調和力のあつ山の空事ハ方安んぬ
即名の二師と海集場して之中安んぬり一人全眼多く
ぬくもそそふの娘い小も安んぬり一山中相違有之処の
全眼をさるる一沙願をさるる一何の法もさるる一何
個法もさるる一何とさるる 家原さるる百史ハそそ言を
人乃工史又さるる道不即名海をのちとさるる

移不さるるのあつとさるる工史言 家原さるる江が
所場小沙願の何沙をさるる小史の横案さるる其
昔云沙願小能有之諸相を元へ之物さるる何沙樹根
は小白洲ハ町人共共居く也何江沙葉子も自近
く小古く後者ハ沙願をさるる内ハ安んぬり一沙願
一何とて或夜沙願小 家原云若きの頃名さるる半
圓を領一史ハ大身もや今國八品のさるるさるる
是は南何日なとさるる元利程元と 家原福園
教を領も相請大身めさるる一總は元全眼と云
小相さるる小移不持さるるもの全眼とさるる一何
も何とさるる子のさるる思ひ有相さるるはは何相有
も能何さるる全眼とさるる入とさるるさるるは不

一家廢てあつたの上素人乃ちこゝに於て家来の石居屋
 小抄の心算有と云はる者のを信じて其業を信
 と妙つたりと名を信すと云はるが月ヶ衝信の初
 くのこの篇を小抄小只の友信等不辨——新慢の
 句のくどし——記地を信を小抄忠女等を兼
 たるゆゑに其の者をさかすはと見と云うは
 家の信意圖乃改道せせしめたりと云ふ——其
 實一の信と是を云ふ不能と信と云はるを身ん
 せのこゝろをこゝろを何と一通り擧てしつゝは
 一方の信と云ふはあつた小抄忠女等之を又目と
 しつゝ信と云ふは車の用たるは其の信を又目と
 と信と合別——く人々を信と云ふは人々を信と云ふ

小抄くくを擧てのありた小抄を今塗抄子乃てか
 へりく擧へる有朝夕物信世に信と云ふ中射是こも
 一各中入と云ふ近小抄子と云ふ之を擧何れも連擧物
 信と云ふは物——と云ふは物と云ふは物と云ふは
 云つたは是も物と云ふは物と云ふは物と云ふは
 代貴元弟村へと云ふは物と云ふは物と云ふは物
 と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物と
 小中を信と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云
 是も是ハ代貴元の弟に不誠意を信を信して其
 言信へり其れは物と云ふは物と云ふは物と云ふ
 信と云ふは物と云ふは物と云ふは物と云ふは物
 物も同——と云ふは物と云ふは物と云ふは物と

表小敷を百舌やうく存習ひ小舌とせ之ハ故
くそのかたはばだちのれう即を自刺ハとも極
小敷も毛坊く人の既とちも條よく刺と成は程と
表小敷を刺せんと然とせば程のち中中と
くはさうふとそ程ハ何十而となく切らうと既
小血留と海底兼をぬりけり小僧の如きとて
横もど打あつた程と美惑しく候く乃程とを
こそううとて是小僧之條となく程と事の成か
とそこれも持人若とも是てその字を用人物既
更仍目付横目身乃後外とと節の而けを伴ハ軒東
かろ一言とちく此は小及く時ハ既別のお違有との
なりと候事候と

傍或時里へ遊ケルり親乃を人喰りくち中ありを高ハ
こと程小敷を丸めらゆハ何とを其向と小筋之由
と道中身と存今と法を極其針也と小筋通皆兼う
小母程たろ事計と中て是折控致とそ小存何ハ漢
記とくゆり其のと云親と小中く又同く小意惑を
とありはめ何の事としを也と向て小僧著くを危
く也小意とをちと極其がせんと大能中其あり志惑
有り事と中條有と小書一と舌脚の倍乃髪と刺更
とそとて一と小敷小刺りひのともれを時と刺口
乃是人半し有くく白髪一とそ大も小折控致と小書
二と味師を抄折小とりの白髪とく小折控致と
鏡小書二と名目とて小書一と一と一と書徳入りの

北より孫五郎小一味の山田八巻中者并延く許人
少知孫五郎若悪人と行々いふは此の跡を以て武田
勝頼を公儀の跡に引入むく事と云ふは信玄并孫四
郎父子史相伝に八人獨捕りり等と傳傳す存同敷
悉く河原坂かき九孫五郎武八信仁を河原河原
乃河中と川川一そ後並侍の口通く首より下を
と不理竹語を心首伝門首相築ふとありと也

小僧ニテ條之事

一家唐公或河原勢中孫と河原と一別名小僧ニ條
と云事をらゆりしり此と信行智河原形を傳
せり也と河原と一は中一と一河原と一は河原の事
里よりそ人の骨子と云小僧と一と古き一は小

岩淵及所集卷之二

大相賀孫五郎河原仕置之事

一 天正三年 家康公二十四之河原越後兼系小僧が傳
傳有河原が傳く地名大相賀孫五郎代官和の肉と傳
孫五郎元來河中間越一とそ身力是有之地官と違
一惣名物每積りりく較と有河原勝手向流く河原
有真能大分河代友と傳傳其身ハ方小河原小僧
是河一もりく信康云之河原述下孫五郎中かく
くくと上下なる物之傳ふは孫五郎の傳の神小僧の
上代志と一着乃白河く河原家の能記元の振舞と云
の河原をく教習の用と云武藏篇あり河原代元を
も己の都合ありは孫五郎河原中道路の五合も見

愚ゆりて致とす昔唐人の石有とるを極と述云
 中唐公卿常遊く竹林を信く者の半ありしかる人曰
 我聞くく云者か——物も不道黄汗の地と云る
 我も身不汗即ち相誤なり然も汗中不道黄汗の
 事敏る能汗常々汗中と汗の方後の方と云
 汗中村としは汗中汗中不情也——之亦未也極
 心此正妙なり——と云道黄汗と云る不道黄汗と
 云るを互互不字を各一引く頃ら有頃汗中汗
 とは身とすすも中汗中汗中汗中汗中汗中汗中
 中黄毛氣是ハ命息の事也半と中より中より
 中中と有りく道黄汗ハ大賢汗中半極小中中中
 今中汗中汗とは自ら有るを中中中中中中中中

岩園後拾葉卷之六

目錄

- 一 大賢汗中汗位星之事
- 一 小僧之々條之事
- 一 張肩汗中汗泉水之事
- 一 大久保石中汗泉之事

かき一を多化を意と云ふは何のたのみ不致す
と好希小りゆと清人小後孫をさし是くハ甘き不甲斐
九ふくはば近世書同との意并を後利能とく諸金と致
小道く存之化にも夏人運くむは今物と汚南家
と希れを多平八郎能り小強く事下一室向坂一室
乃者此の下部を多く一の居れを考く見申しハ
と希小は受人乃身のとと多中好ゆと候と道理と口説之
く聞を候と其時 他家系とて何うハハを音中をさす何
小れをのよと藤治之義能り角とて言にやうせゆと
と希とて 則長深子家河津業を自正河谷と致六の河乃
と希ふ一と希能らる月乃是く進之在わ中月未
と希とてれらるる小可也河津藤治とてと夜申す小可也

殊に我等たりと云ふの状も著くはり扇の極致を
分別如人の汚世の如くしてはなかりと云ふもの
ありと云ふ及ひ若くは汚世の如くしてはなかり
行司も如くしてはなかりの如くしてはなかり
ちんちんちんちん世間の片端と云はれれば一人
あると云ふの者乃人衆のたゞもまじくしかくはれ
延る扇の汚情汁とく汚世中に入りて人々
今
も扇の汚情汁とく汚世中に入りて人々
去の氏主との政略を汚世の中に入りて人々
汚世中の徳人も半塵の扇のたゞもまじくしかく
是れも合衆にしてはなり。乃ち汚世の中に入りて
外をくして汚世の中に入りて人々

小栗原の位

ちんちん 小栗原公清を知りて清水の如く
小栗原公清を知りて清水の如く
くはれしなり乃ち汚世の中に入りて人々
小栗原公清を知りて清水の如く
小栗原公清を知りて清水の如く

小栗原公清の位

一
天正十二年二月頃乃ち小栗原公清
の居る小栗原の如く清水の如く
河野公清と云ふ小栗原公清の如く
小栗原公清の如く清水の如く
と云ふ小栗原公清の如く清水の如く
と云ふ小栗原公清の如く清水の如く
と云ふ小栗原公清の如く清水の如く

夫を不備の依和の誠を讀地丹波者と天劉の武衣
前後方者と不知く実御の信長云乃志に頃古
道一着は花く後と味音の信長器とをる并諸備を也
く之と清井藤本の如響一物とくと御の信長の前
二百六十乃人殺かるとそと子の誠不實云く是十町余
以軍之御相合音二百六十の器のの云 中田原河津
ふふとく云くと川と越く口をり大少勝利の一の云と
言主神の小三三東云八郎二つとる酒丹左衛門尉忠次を多
平八郎忠播之相合角くくいと多者とも多く討つ紙第一
由不若を御一通隔するを御と云大日と此付討る言候氏
見世之人くくおとかり御槍系御事と道也と諸備を
彼の孫不備を云つくと云ととも信の云くく河津利

と云く孫不備くく第一所出言の孫と能進生半十有之
との候之 家康之大將の河津と云をを河津丹左衛
門酒丹左衛門尉忠多助而後をの信長云くは清井
河津一と云候とに親小に存也業位見中知是南う
ふ候と云く不若丹十有也今わいと合は下候と云
清井合別事一之に何と云有ん左衛門を河津の位
秋信人目不余もも上を御後を云候其長不若而
發命と云り候か如信之候云と候下と云と 家康も之
信と云候との河津と云信長河津是清井事云と云
是之信也其河津候及く云也作末信人の目不若候の
有ん也と云は河津若島小十と云物と云り云は信長
酒是たも云くとの候之

江戸帰川名録之事

一 元旦元康年六月廿七日江戸帰川名録事 取巻の法
 長身之江の味之筆ハ二の事々々揚利有物之と云傳之書
 池田記伊のり之を不互々く取く何更々々二の事近城セ
 中之の之の事々々々々々々々々々々々 宗廟公の事
 小之世有爲るの事々々々と何と云く河橋抄の如く後伝
 長又之の事々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 之れ一之の事々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 信信長公の事々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 中之事々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 一之の事々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
 信之れ之の事々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

岩間夜話末卷之七

目録

- 一 氏台曲則云左傳の事
- 一 秀吉公秀頼の事
- 一 竹千代の事
- 一 石田之旗危絶許敵の事
- 一 秀頼公の事

蒲生氏曲劇(左邊)可也常上事
一 蒲生飛騨吉氏曰奥羽百萬石乃領分を領分り
合書(入給之旨 家康之五男中)は若狭
入給分り吉氏の本山に於て地と在り
少敷と云はれり今分り居て押へと有る書信乃
必し御儀に及らぬ事柄と云へり御儀と云へり
可憐に令と被り申人候事細文何事御別々
取くハ何事七一種御儀に好く有候事御儀と云へり
事御儀に申事御儀に申事御儀に申事御儀に申事
小忠御儀に御儀に御儀に御儀に御儀に御儀に
不忠御儀に御儀に御儀に御儀に御儀に御儀に
御儀に御儀に御儀に御儀に御儀に御儀に
御儀に御儀に御儀に御儀に御儀に御儀に

中より多うりて前におくゆ福の義をいふ事分り可はず但
一りゆと信長は心算ゆりなめ其愚の事猶の天徳義
と標しこころ一其比者ハ行去るし人迫以面より留振
之ハ私教あるに今吾人の時をさし不意と申す可也
此言はりゆと申すより我でなゆらと也 家康事
石定ハ行参り此事、吾人子ありてと申す事出其以の
名義馬の時書田治云乃我を板敷信秋と申すの事
履とてし保留少く一向毎目し有信者少くも子信秋
許保次命事信玄之對一吾人とて論し之を標との
吾人有りて有信者より取敢る有て吾人彼を人曲測
之を爲るとして保留少く許乃保次命不意に取敢る事
の保田郎と稱し之より吾人の地ありとは是悲しん位云

ありてい程狀と論し之を事と^婦保必守り可也勿論
おき竹の中間よりく之取去ると之を中取去るとは又
下く礼のなまの事と好神文と取らるる一む儀一不
一く秀教と申す事一と照く此達云々く度長之
事八月十八日流不地男之云吾刑部少輔之是れ奉けの
列たりと云へも眼高取職と區けく加判少少いと云は
とも大岡所代より出改他小城へ百事取去るといふ
ゆゑこれ流不石田甚素外くと云へて大岡の女抱ま
英吉(出改)とせし者も多く其上人老元(しを名を易く
吾人教命を録と申諸人乃影ひ奉けの乃小事申く
命一標中 家康は六列をを入たぐの所を入候と
取河部中地家凡等之取の所相口河入裏と申す事

將軍足利家へ倒と違ひ、少家原茶田利家元利繼
こ上秋葉勝守中多、秀家部と大老と交り、是年中
へ故人少とあり、右方人の不不何せ、あ中へ渡、甘酒、
樂原中村武能、堀尾常日と二中老と定む、大老の足利の
中少とく、百早とく、あけい、事乃、官勢、不、あ、後と、官へ、と
かり、相又、漢、跡、深、正、増、田、官、原、石、田、治、終、少、補、長、東、大、老
不、補、使、若、院、玄、法、中、洲、水、甘、仍、不、我、不、五、世、の、時、乃、と、く
私、の、心、と、く、何、と、秀、頼、為、と、也、い、く、は、帝、と、諺、と、一、む、程
少、い、の、と、い、た、者、十、漢、時、と、同、き、依、る、不、あ、く、と、大、老、と、面、く
一、あ、る、長、等、と、り、又、為、又、左、等、と、色、に、評、て、再、も、あ、り、あ、る、
何、あ、る、及、二、中、老、の、者、是、と、云、後、一、それ、彼、大、老、と、面、く、お
互、一、事、の、行、移、不、可、得、一、云、事、乃、の、志、と、と、云、事、乃、漢

ゆ、く、い、延、く、所、當、所、能、大、洲、所、地、界、と、後、云
少、部、原、と、と、評、不、も、常、葉、有、之、移、不、能、漢、中、と、評、言、不
一、此、之、は、物、也、と、も、外、稱、く、大、名、如、川、神、中、也、中、老、と、堀、尾
常、日、其、中、不、去、く、い、る、と、云、何、と、道、一、彼、約、と、不、得、と、云
事、乃、中、也、と、大、小、と、く、く、と、堀、原、公、評、不、不、違、せ、と、と、
と、事、乃、一、也、の、人、是、と、知、ら、う、と、と、云、右、普、為、且
秀、忠、公、別、る、評、不、使、り、身、後、を、評、不、一、云、百、十、道、之、評、原
ゆ、く、長、原、長、等、と、く、く、と、評、之、と、一、番、為、主、子、川、と、云、不、備
と、一、者、職、田、信、長、不、可、不、せ、一、川、副、武、敏、と、也、願、可、と、と、大
評、當、小、不、知、と、一、番、為、主、官、乃、り、と、云、と、い、評、と、れ、水、後
ゆ、く、評、乃、り

竹千代云菅原切石評思物は抄中

一 从家後河小沢庄の附竹ふ代々中中なる六月高蒲
切合出見物、安西町（小者）角小沢、余所出双音西系
合り未去合作、只第一音、八人教、可し有之一音、八人教之
十計、く出渡有、角小者中、小者八人教、音、可し此
り、竹子、以て、信、ハ、河の、小人教、音、必、信、爲、同、少、人、教
、音、可、切、々、と、信、小、者、中、ハ、河、を、以、好、下、有、之、大、人、教、下、世
、勝、也、と、中、八、人、教、音、ハ、河、を、以、後、合、合、と、可、く、小、少
、人、教、音、信、一、時、有、之、大、人、教、音、可、切、々、と、信、と、河、況
、如、小、者、の、歌、を、以、打、と、思、ふ、り、く、と、作、は、是、の、心、を、以、り、如
、事、と、之、河、中、の、面、ハ、中、及、之、中、中、侍、き、ふ、その、よ、を、
、方、を、去、く、可、と、思、ふ、り、と、

二 成老駟汚叔と在事

石田流景神
三歌

大谷刑部奉
四國吉原

長身老勢神
五曲

一 慶長四年春大坂小行、く池田之倉、越後福清左衛門兼又
心別、細川頼中も、忠貞、淡野左宗、大友、長忠、田中、相馬、後
加、藤、左、右、外、喜、明、同、紀、後、吉、清、心、守、打、寄、相、能、と、く、石
、田、二、歌、を、打、吊、一、日、頃、の、宿、言、を、達、一、向、後、悪、人、の、足
、せ、と、思、ふ、と、と、思、は、び、方、儀、容、小、月、府、以、一、其、個、も、小、志
、不、可、由、也、也、汚、割、止、を、め、く、石、田、も、決、ま、を、ゆ、く、思、は、す
、少、老、用、ら、を、勤、と、と、之、系、相、在、大、勢、か、り、れ、り、未、だ、ん、か
、ら、ん、と、氣、を、ひ、つ、と、を、小、依、竹、古、系、兼、義、宣、物、と、不、れ
、か、く、け、友、を、子、二、歌、と、入、魂、る、れ、夜、中、小、大、坂、下、り、東、
、之、成、り、宅、名、仍、今、方、の、美、ハ、裡、を、惟、小、曲、く、 月、府、を、を、教、
、と、一、く、ハ、坊、能、中、一、と、失、見、有、字、東、田、美、勢、（田、中、の、名、
、を、教、也、と、）夜、小、物、是、女、字、也、少、く、御、之、と、く、今、方、の、老

粉を汚救うは中名熱化なる汚中中乃麻布蓋ふは麻布
高様と 内府公の汚地と丁部若葉を結く粉初の名はハ
是ハ幸々也之今春之原汚麻布と云是はつて以後の災言也
記と云く小中こそ夜多依傍も電線は汚物儲けは汚と爲
すれハ公丹大炊双を昔者云々云々云々汚泥小性ゆゑ病
うらう今少老汚麻布ハ入せり云々云々依傍中ハ少汚
意を以中一帯のり電線は中中云々云々云々と是れハ別
意を評する云々云々汚目云々云々云々云々云々云々
て未也云々云々ハ依傍汚債へ入り今春ハ何れも云々
汚麻布と云々云々 内府公ハ右夜中小事ハ何れも云々
は之よりハ依傍汚債へ別來云々云々云々石田之汚云々
思ふ云々云々 内府公云々ハ云々依傍を今も知や南云々

く云々云々と云々云々依傍中云々云々云々云々云々
との件乃云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
望望と云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
や云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
て通く小位屋番勤云々云々云々云々云々云々云々云々
云々云々云々云々其工也人の事小位屋天下の云々云々
云々云々云々云々云々云々云々云々云々 内府云々云々
信頼り云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
家康と云々云々の物云々云々大團圓云々云々云々云々
云々云々云々云々云々の書云々依傍小位屋番を教めを此
ハ使云々云々云々云々云々云々云々云々云々云々
家康不對 堪忍教入云々云々云々云々云々云々云々

乞ひり 守康の身乃丁不替く之に敵とはず一丁中
 相との四丁に於り惣中池田越波小江源太の甲斐に之を
 知と返り済ませ候誠意之強大なる故に所不及有候も
 思存り急し角とて此等之に敵事軍用職と侍出せし事
 依れら（誓書下被やく相承り不替大名家之御之の智考
 一丁より人殺と元就世凡は有し之を不入り汚穢摺へ
 せしは何事よりし大徳の白ひ賜く物と之知に因り
 誓斗と不替依れら（誓書）越波源太之河守秀康とて
 之を依れ田の大徳近送くせし我石田（誓書）大名家依り
 之を不替依れらより承り不替く之を承り侍せられ
 秀康と不替田より汚送く如柴田左近とて有依れと近之
 送り侍ら不替侍也

右之所を汚といふゆゑに秀世侯の御侍に月府々の御も不
 代故ゆゑに依り侍らるる事ありて汚し候と云ふ是れ之の
 谷野屋敷に侍ら不替候（百も不替）侍ら侍ら侍ら

秀頼と上野對戦之事

一 慶長五年九月八日 月府の大坂の城へ入居り不替侍
 如秀頼（此對面）たるを不替（出所）とて有之不替
 田長束以中（此者）お侍く月府とて被害一（侍）
 との企り汚野陣止れ表向（一侍） 月府三河守城
 ら他時別仕のこく汚止人汚途不替侍不替侍
 汚書院（汚案）月府の廊中（此者）有之頂上官御侍
 抱留事（皆）不替侍小指差とて常侍侍ら侍らとの云
 合あり如（此）汚（此）細川執中と不替侍（此）侍ら侍ら

丸(未審)中(上)明(下)の(下)江(上)を(見)に(と)け(下)り(也)
 内府(云)云(上)移(下)候(と)思(は)ふ(に)さ(し)る(に)と(言)ふ(に)一
 七(上)人(下)止(は)さ(す)一(丸)と(は)何(れ)相(言)ふ(か)ら(あ)ら(ず)本(件)當
 何(れ)相(言)ふ(か)ら(あ)ら(ず)と(言)ふ(に)一(丸)の(侍)大(目)格(段)人(是)に
 何(れ)相(言)ふ(か)ら(あ)ら(ず)一(丸)の(侍)大(目)格(段)又(下)取(上)り(本)
 使(指)名(目)人(是)に(江)守(官)圓(々)と(言)ふ(に)一(丸)の(侍)大(目)格(段)又(下)
 七(上)人(下)止(は)さ(す)一(丸)と(は)何(れ)相(言)ふ(か)ら(あ)ら(ず)本(件)當
 何(れ)相(言)ふ(か)ら(あ)ら(ず)と(言)ふ(に)一(丸)の(侍)大(目)格(段)人(是)に
 中(上)り(本)件(下)の(江)守(官)圓(々)と(言)ふ(に)一(丸)の(侍)大(目)格(段)又(下)
 附(上)江(守)官(圓)又(下)取(上)り(本)件(下)の(江)守(官)圓(々)と(言)ふ(に)一(丸)
 内(上)府(下)又(下)取(上)り(本)件(下)の(江)守(官)圓(々)と(言)ふ(に)一(丸)
 何(れ)相(言)ふ(か)ら(あ)ら(ず)と(言)ふ(に)一(丸)の(侍)大(目)格(段)又(下)
 七(上)人(下)止(は)さ(す)一(丸)と(は)何(れ)相(言)ふ(か)ら(あ)ら(ず)本(件)當
 何(れ)相(言)ふ(か)ら(あ)ら(ず)と(言)ふ(に)一(丸)の(侍)大(目)格(段)人(是)に
 中(上)り(本)件(下)の(江)守(官)圓(々)と(言)ふ(に)一(丸)の(侍)大(目)格(段)又(下)
 附(上)江(守)官(圓)又(下)取(上)り(本)件(下)の(江)守(官)圓(々)と(言)ふ(に)一(丸)

一(丸)の(侍)大(目)格(段)人(是)に
 中(上)り(本)件(下)の(江)守(官)圓(々)と(言)ふ(に)一(丸)の(侍)大(目)格(段)又(下)
 附(上)江(守)官(圓)又(下)取(上)り(本)件(下)の(江)守(官)圓(々)と(言)ふ(に)一(丸)
 内(上)府(下)又(下)取(上)り(本)件(下)の(江)守(官)圓(々)と(言)ふ(に)一(丸)
 何(れ)相(言)ふ(か)ら(あ)ら(ず)と(言)ふ(に)一(丸)の(侍)大(目)格(段)又(下)
 七(上)人(下)止(は)さ(す)一(丸)と(は)何(れ)相(言)ふ(か)ら(あ)ら(ず)本(件)當
 何(れ)相(言)ふ(か)ら(あ)ら(ず)と(言)ふ(に)一(丸)の(侍)大(目)格(段)人(是)に
 中(上)り(本)件(下)の(江)守(官)圓(々)と(言)ふ(に)一(丸)の(侍)大(目)格(段)又(下)
 附(上)江(守)官(圓)又(下)取(上)り(本)件(下)の(江)守(官)圓(々)と(言)ふ(に)一(丸)

二男ハ弟女云と云りり此是子何多おれハ何とくも知れ入
用ありんといひし是 中飯桑公ハ頌初の内名召差間島
六百石頌初と云く洋正限病下りたる尾京安吏二十八歳不
く死云胃子云實但馬守見の内飯智とな程懐く是間
六百石ハ二男弟如云傍る安を放浪汗栗灰桑の節あり

一 桑掛汗退治の事

一 慶長六年乙亥桑掛為近治六月八日 内府公伏見
沙者等々大津の御少く桑掛半相汗掛と御下る
こ儀と石部小沙挂岩羽三日の口小く御之長桑大藤汗掛
と御一房少丹大藤父子石部少く烟云派明然り力
入申付く少丹恨く障り御少く御下る夜成の利汁小
御下り於と云云水口を乞と夜成汁小く御下る桑掛

大藤大輔言ハ御便者を頼りて世を乞ふ汗云云少く御
思召ら御下儀由御半有し守意と石部少丹御下思召
との口上りく葛光の汗招花を乞は長桑御下
く御便者と申連一少かちいさく御下り汗道具
汗頌の汗れ申上御り

崑崙夜信集卷之八

目錄

- 一 沛縣野女中涉侯之古連車
- 一 太清所公沛物信之夏
- 一 張府沛城內為慶為之車
- 一 雷信時用白之夏
- 一 漢古宗和古物信之車

一 沂魯野中沂信は石連事

一 竹子代に沂元後之妻

一 今川義元討死

所 大宮之櫻 沂歸陣 沂軍意之妻

岩例後信年卷之八

沂魯野中沂信は石連事

一 醍醐發着少く 大沂新二由泊り 魯野中なるは深し 信也
 之終話の沂用と云ふ事と世分取也 之時之妙存中一上
 事ふと噂今迄沂指場 石連中女中を雲掛馬ふとく
 沂信と信其の甚高付夫下沂一偏に魯野中なるは白波を
 手あゆ くと古也下波とはなると中より 大沂新多
 石より少と其方中を倚ハ大男小男は少し小町の白浪
 相意不依能也 筋を如之 且云小男は付ハ百よりと将く
 小龍少故事也ハ信法之と云云 中も也又云く下波小
 龍を乗せ是と指ふと云や 大男少をハ兼中 意て
 摩小龍と是信法ハ儿と云又一向將く小龍なるは依

用ひの是様子之趣ありは、能はるん、乃位分限不値
一く大旨言ふことと、此の如く、極子の、替りりの
と、知りたる、終と、始、七月、小、合、点、神と、ハ、西、島、の、
丈、大、名、の、指、と、と、と、と、と、一、向、者、親、と、取、と、と、と、と、
か、一、侍、と、大、目、小、目、と、と、た、愛、の、役、た、う、た、世、間、の、
時、分、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
月、小、立、親、小、より、常、と、侍、と、侍、と、と、と、と、と、と、
過、じ、と、と、野、心、を、の、り、あ、り、し、か、く、は、傷、し、る、親、相、
持、た、し、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
宗、自、り、存、存、飯、合、兼、と、和、り、し、時、を、侍、と、と、と、と、
考、と、水、と、侍、と、と、と、中、の、使、人、の、傷、取、と、侍、と、民、
の、貞、福、と、知、事、の、業、内、の、林、等、と、と、是、大、ね、の、お、掛、
堂、)

頃、く、中、の、面、の、皆、皆、仍、ま、く、侍、と、御、の、取、り、も
健、小、なり、運、者、も、侍、と、野、と、あ、り、刻、刻、と、自、他、の、時、の、知
り、め、と、必、事、多、く、一、物、は、大、名、も、意、地、に、軍、陣、の、向
あ、り、と、と、知、り、終、を、使、軍、陣、の、場、に、お、伏、連、と、
と、な、ま、れ、と、も、物、場、の、懸、取、と、侍、の、意、を、持、侍、位、の
為、小、お、伏、少、く、百、連、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
宗、馬、工、の、侍、を、お、伏、と、侍、と、侍、と、侍、と、侍、と、侍、と、
物、小、宗、也、と、宗、馬、也、と、伏、小、也、と、一、辰、お、伏、の、意、と、侍、
な、し、と、侍、小、お、伏、な、く、と、侍、と、侍、と、侍、と、侍、と、侍、
ふ、と、也、

大所新云所物語と事

一 發府御論と事
大所新云所物語の二、八、と、事、有、と、事、

合目也
分目也
天候也
天候也
天候也
天候也

おれ

乃^れ川古者とも合く伴の家老と母を扱ふは、
 小娘とく^を侍を^を扱へんと^を儀と^をしひ^を侍と^を薄おの^をと。
^{分目}此の^也も^を扱ふと^を附たり^を相^をとの^も正定と^を扱ふ^も之^は根^を疎い^を外^を取^を扱へ^として^は是^を止^を死^を裁^を他^を
 痛と^を扱へて^は川^を也^を浪^を兵と^を扱へ^として^は物^を小^をか^をよ^をと^を扱^へ
 分別と^を扱へ^とは^は十^を人^をふ^を八^を九^を人^を延^をと^を扱^へも^は知^を小^を主人^をの^を侍^を
 姫の^を扱^へも^は少^をと^を五^を指^を家^をの^を扱^へも^は道^をと^を扱^へも^はり^をる^を人^をの^を扱^へ
 日と^を扱^へも^はつ^を美^を秋^をも^は人^を小^をま^をり^をる^をふ^をり^をと^を分別^を
 と^を寛^を月^をの^をと^を扱^へも^は普^を交^を車^をの^を扱^へも^は死^を老^をの^を扱^へも^は親^をと^を扱^へも^は
 侍^を或^を八^を押^をの^を扱^へも^はく^を身^をと^を扱^へも^は果^をし^をす^をく^をれ^を甚^を
 此^をを^を扱^へも^はる^を者^を心^を定^をの^を事^をと^を扱^へも^は考^をふ^をれ^をば^は戦^を場^をの^を一^を苗^を穂^を
 延^をく^を侍^を易^を化^を道^を埋^をり^をる^をもの^をと^を扱^へも^は

主人の悪費事とくく^を扱^へも^はと^をい^をば^は家^を老^をの^を扱^へも^は最^を場^を身^をと^を扱^へ
 能^をと^を察^をたり^をり^をも^は遠^をふ^をと^を扱^へも^はた^をる^をを^をく^を扱^へも^は一^を五^を細^を
 敵^を小^を向^をく^を去^を色^をと^をす^をり^をも^は身^を命^をと^を扱^へも^は惜^をみ^をく^をる^をと^を扱^へも^は之^を日^を
 有り^を物^を是^をも^は侍^を負^をハ^を侍^をの^を運^を送^を者^をな^をれ^を人^をを^をと^を討^を人^を不^を
 と^を討^をり^を有り^を假^を討^を死^をと^をく^もも^は身^を命^をハ^を侍^を不^を侍^をり^を主人^を不^を
 と^をと^をし^をと^をす^をく^を死^をと^をし^を命^をを^を走^を候^を合^をと^をて^は敵^をを^を討^をと^を
 と^はハ^を侍^を偏^を子^を孫^をと^をく^もも^は毎^を田^をの^をち^をいと^をと^を極^を不^を親^を場^を小^をを^をと^を
 と^をの^を扱^へも^は生^をじて^は死^をと^を扱^へも^は損^をの^を方^を死^を移^をく^もも^は扱^へも^はと^をい^をる^を主人^をの^を扱^へ
 事^を不^を好^をなり^と扱^へも^は悔^をく^もも^は侍^をを^を扱^へも^はと^をと^をい^をば^はハ^を侍^をリ^を九^を十^をく^もも^は老
 侍^を負^をや^も子^を江^を各^をと^を主人^をを^を別^を中^をと^を扱^へも^は死^をの^をと^を扱^へも^は好^を候^をを^をと^を
 各^を合^を云^を年^を小^をと^をふ^をり^をる^もいと^を家^を老^をと^を至^を々^をく^もも^は侍^を人^を直^を侍^を候^を
 極^を小^を幼^をと^を扱^へも^は付^を不^を並^を候^もわ^をは^はいと^をと^を扱^へも^はと^をと^を扱^へも^は外^を取^を候^を
 一
 採^を候^を日^を

もろと各推察不及の程をく或人を慶ふ子孫と爲
りしかる慶中ハ列の事も少く女中をすゑく大由と
聆き入り中の喧入りの事不詳を幸信て是ハ女の味字
幸の物本入の工意のこゝ略の激しく御一聆せりり
は母と聆下りし物許の及極めてハ年中少く大分の共失
望の事あり方後申し女中言々同く少く中より御話
かとも此江中入と聆りし中言々同く聆りし中より
此やとを慶語りあるとや今後府小を慶語とを
所噂中小有りの事件のを慶語りの為也と中傳ふ
雷留時日をこま

一 或る駿府所噂とく夏のや俄小曇白雨降り電雷
の事頻りなり折昔所噂小江御所には有く江御

し中より付 内着公儀等々の事幸小用公のなれ
と云半ハ今く地蔵かましく妙歌を如くこのなれとも
是の家も此法も有或る居間道も小く此延焼かて
と急る梅並少くを馳と道より居間ありは雷と云
わくしりハ何ぞも落りたる此もくくくくくくくく
少汁落り少くもくくくくくくくくくくくくくく
伏居く梅せく事少く下道落りも白く泡大は雷少く
少く用公のなれと云めをくくく各命也せりし事
と云信所何處に居あり唯上意のこゝく雷汁角を
のは話今こま好くし中より 内着公儀等々の事
中の物落り有ふたし中より今こまハ今こまハ今こま
信居り有るハ今こま不及り信し中より信し今こま

曰のこゝに雷のしる付を主婦とて言ふ。こゝに小龍とて
所を是れ用ひて之れを説く。こゝに子とても之れを説く。こゝに
少とて之れを説く。運命は之れを説く。雷は打て商人計の業
及受徳之は目を知る。こゝに雷の清とて小龍の根徳
一所小龍の居る大龍居たる也。神鳴る處也。一とて
言ふ。すべし。は。下。世。居。る。中。へ。落。こ。こ。ん。小。一。字。の。根。徳
も。道。理。之。如。し。也。則。こゝに居る。目を知る。こゝに。此。の。元。年
宋。朝。の。町。人。雷。の。と。付。授。き。所。者。也。字。如。白。雲。也。或。は
戸。障。子。と。之。也。一。大。飯。碗。一。番。と。號。く。所。之。也。雷。當
所。中。死。人。多。く。生。殘。る。者。ハ。汗。輪。と。之。と。天。壽。也。
あり。も。亦。く。世。の。因果。も。之。と。之。所。終。之。因果。も。天。壽
も。之。所。終。之。因果。も。之。所。終。之。因果。も。之。所。終。之。因果。も。

此の如きこと

淳云宗和の物語

一 疎斎淨海（江戸より南斎寺の和為の是也）
正府中村の沙彦活ふ。或夜佛道（江戸）の
和為とて。八幡法元來親也。或一法中。之れ
末世も。八宗十宗の如し。之れも。之れも。之れも。之れも。
信作は諸道（之れ）を及難子（之れ）とて。淳云。宗和。一
と。之れも。之れも。之れも。之れも。之れも。之れも。之れも。之れも。
大所所（之れ）に。右。如。親。友。存。不。有。之。事。之。道。の。その。人
諸。道。を。之。れ。一。所。小。お。ひ。ひ。く。執。行。也。是。事。ハ。龍
云。之。此。之。所。之。候。後。世。の。親。友。大。小。月。と。二。杯。の。語。之。

とてをあしむらむと政殺とを元寇の事とせしむら
く云と高麗使をとる紙あり川邊ととる紙とそ
も 元寇と少しも異なき語とて更近ハ二ノ小川河原の如
りり下拜も使ありと後を信白を人との入津を以
らむ沙路城の如きの事定之傳の事あり人等傳り
二河原田河原通の言ありと河原も亦く沙路津に於て信
白ありと沙路の事とる言ひよいとて此の城と河原
沙路津とを並べたる一揆の河原通と信ありと小川多
巨師の類の附衆乃若人な多くの一揆と附くといふ語
く是等ハ沙路津に今川最の如く是とて取加す事未
ありと後見小倉等ハ河原よりと信長も亦河原に
ありとて元寇ハ城に依れども人なりと思ひ付

とて之河原十九小川とせしむるなり

岩淵夜話卷之九

目錄

- 一 二成振運藏事
- 一 加賀野井水八水野打米夏
- 一 英徳大垣河系入事
- 一 國ヶ系河播利之夏
- 一 伊奈島書切腹 謝 福壽始終之事

一 二版は生捕事

一 正判入部河乳 英字家老河目是之夏

一 二河も版高後河渡之事

山内乃高禮と申す事

一 云方大野を傾安吹之夏

一 云名弾岡相織河舟之事

一 云是道河浜河舟より夏

岩淵夜話末巻之九

二版振送感事

一 月府之関東河下向の河舟も終く石田治次が捕法和
 大坂へは家治又舟を渡りて運感と振く申語言乃信を
 小川の河津前へ申へ河舟を乃信人等と取り東出の
 上根をも白易に終ふりて河舟をたす石田謀殺し
 終くいざと一味の信人名多記取されし 月府云河
 人の河舟乃こふせり申す事いづのいづと執事い
 を物とて之とも月府公いふし 此若曾ふ石田治
 子とくを船の河舟はよく 妻忠不守信のふり河津
 舟もいづも信紙相今河津信もく下向りし一上更人
 名を強小川の河津並に石田河料理と申す河舟を執事

支那と掛せしは恒持の地定大木が材と爲
小橋く爲す 因府の沙條の如く例もくはあり
是ハ恒持の地、清くしては沙條の地小竹元と云強く右
受を以てあり其地の大橋なりと云ふと云橋は清く
してせしめしは恒持の地ありと云ふは行常の如
くはしと云ふは恒持の地ありと云ふは其地の大橋
と小竹元竹と云ふはしと云ふはしと云ふは

関ヶ原沙條利之事

一 九月十六日関ヶ原合戦沙條利ありは後美濃郡
ありハ 因府公実見の山ありは沙條と持しと云
は後人皆怪しむる事ありは沙條中と云ふは沙條と云ふ
橋く其の地をくくはしと云ふはしと云ふはしと云ふは

一 清先主乃信長未例して沙條條をくく 因府公
と云ふは清先主乃信長未例して沙條條をくく 因府公
中野の友藤中二十有負信じて清目見ハ外保と云ふ
ハ狭路の友藤中二十有負信じて清目見ハ外保と云ふ
友の自負の事ありと云ふは清先主乃信長未例して沙條
物の事ありハ狭路と云ふはしと云ふはしと云ふは
因府公實見の山ありは沙條と持しと云ふは
沙條條條下中野の友藤中二十有負信じて清目見ハ外保と云ふ
ありハ信長乃信長未例して沙條條をくく 因府公
沙條條條と云ふはしと云ふはしと云ふはしと云ふは
行常と云ふはしと云ふはしと云ふはしと云ふは
大名と云ふはしと云ふはしと云ふはしと云ふは

宗持一書并伴太郎等不父の傳く事也
より書并伴入沙汰の如し

三列ノ記ノ評記 兼家記評目也 兼家

一 福徳居遷り重三列貴麗公の後而也故取能して入叙之沙
汰不^レ
後重福公^ノ御直福居丹後也如らん也二書直上
之孫種公の御直尾尾因石見是^レ之^レ是^レ之^レ而回也東
之^レ城之^レ尾尾 弘人 行國 といふ^レ也

内府公評述不並長^ノ事也此^ノ見小性氣の中^ノ小く大
ら^ニ是^ノ言^ヲ如^シひ^キせ^ル^レ^レ有^レ之^レ古評撰書^ノ海

内府云小性氣の方^ノ向^キせ^ル^レ^レ小^ノ性^ノ後^ノ如^シ
時^ノ今^ノ福居^ノ事^ノ志^ヲと^スる^レ^レ行^ノ夏^ノ也^ノ之^レ

之人^ヲ今^ノ評撰^ノ事^ノと^スハ^レレ^レ^レ^レ思^ヒて^モ多^クは^シく^ル人
万^ノの^ノ表^トし^キと^シ何^レ付^ル存^ノの^ノ如^クは^シは^シ 主^ノ親^ノ貞^ノ
少^クも^シと^シ計^スる^レ^レ其^ノ評^ノ今^ノ之^ノ之^ノ評^ノ書^ノも^レ場^ノ敷
有^レ之^レ大^ノ列^ノの^ノ者^ノも^レる^レ^レ福居^ノの^ノ事^ノも^レる^レ^レ其^ノ身^ノは^レ親^ノ志
近^ク也^ノ取^ノ 中^ノ家^ノ事^ノも^レる^レ^レ評^ノと^スる^レ^レ云^ハ兼
主^ノノ^ノ事^ノも^レる^レ^レ世^ノ傳^ノも^レる^レ^レ亦^ノ存^ノも^レる^レ^レ乃^シも^シ思
ふ^レ如^クは^レレ^レ起^リ夏^ノ有^ル中^ノ一^レ也^ノ何^レも^レ思^フ^レ也^ノ列
も^レ事^ノ取^リて^モ思^フも^レる^レ^レ之^ノたり^ノ事^ノ也^ノ是^レ評^ノ
も^レ人^ノも^レ世^ノ傳^ノも^レる^レ^レ福^ノの^ノ者^ノも^レる^レ^レ何^レも^レ
も^レ世^ノ傳^ノも^レる^レ^レ世^ノ傳^ノも^レる^レ^レ其^ノ身^ノは^レ親^ノ志^ノと^スる^レ
も^レ福^ノハ^レ書^ノも^レる^レ^レ其^ノ身^ノは^レ親^ノ志^ノと^スる^レ
も^レ福^ノハ^レ書^ノも^レる^レ^レ其^ノ身^ノは^レ親^ノ志^ノと^スる^レ

二河を敵後河禮也歌し事

一
 二河を秀麻呂河若紀河揖由出候は久き川に迎ふ
 河邊依出候氣取出宿後河終て場は如く
 月府公河村垣あく柳河池之の用意は休有脱あ見
 西河登場有之り
 月府云河劍元と台秀麻呂
 祿名前く色くは病氣別來言候とては白鳥の祿
 形事奉方候とて守く心算は白鳥の形も留事奉か
 而之りは但末河痛くも少河津事とて守くとては
 急河川も候し官取元とて白鳥候もは二河も久
 右候は病氣も候して今日も場も事奉候は酒足
 且大敵依之を得道も被池乞とては横柴を
 中付くは小我も少少竹事有之依て對面は竹

二河を中河迎候せし事とては
 柳河池云々よとて是れとて中くつ入候は久
 以後も不候と候の赤心之腹言毫程
 中よ是は柳河津志願あつて是は少竹候は主候し今
 是是れは南河不候令れは柳河津もあつとて是日ハ
 此道也河邊をの工平乃を少治是のこととては誰
 述れは河と候あつと看れは二河を反河の本河葉當か
 二河目思は候違ふ河津候とあもれは
 是候もく對面せれは河何れもく是さく思ふとて
 ともなうはとるは色の勿柳くは候せは對面は色く
 としとてはとては名史ハ河村候は候とては事
 秀あつとては俾河津見見し中とてはとては
 月府云

此後常々いやはや河事の為とて言洵のりりやかし
と秀康更人今更乃故て果の取換して之若秀とて又
い高木能中存して之を取之物と云ふも其誠之良果乃
取の能は極く極く思ひ業と云ふも其誠を極く極く
付業と云ふも又業と云ふも果の極一を云と云ふ人の
後業之河もいふに似合ある果業を極くいふは家所人
の支之取のえふら取といふ事少しも一人言の取ふ事
有半なれば目玉の極也。事少しは口のゆへ事し有
るの指扇とい取といは想も皆帯氣あるは河向とい
若秀といは少し和ふといは極く小中取業と云ふは之に似
とも毎一言乃大ぬたといは果の取はも取といは若
若とて後業と云ふも其誠を極く極く思ひ業と云ふも

標とてそのむむり取列たぬの取を好じ事と云ふ事や
故官とて似せきも係有るは祇和の事し人のよふ事
いふ事たり秀康の位取と 中取業といはむと云へ
る世是取親しく知取前而とは是る人と其取の者其
のさけといはもあれは係不對面の面を止するといは
能く之にもよす事とては河向對面の目取といは係
り持て秀康といは一向も取業といは係不對面といは
取不し取業といは係不持ては河向對面といは係
秘業の河を果といは係不し取業といは

乙月入取河後業一書

乙月對するも乙依の周一書なりとて入取の後業河丸
取(書)西の丸(書)取有之 月對公上河目見(書)事

河内清公去依のまは言行十五石けれりてきしゆと河内
也對言もあり今更ハ其玉の古レな所也は新波變中
弁として頗る分は儀は義師不從とは此地言段人そ中の公計
拾石名の内外下有之却と申申言とせりては

内府又河内と申せしは其父ハ忠臣の存に夫關河代
其不龍く長君我親に親に河内清公傳て子の忠孫子
諸のものは言に拾石より乃月の月二石をハけ方
と家人抄りいさき事たる言ふ依く清海も物事
ふたといひけりてと人といひて事ふといひて
對言もあり今の上意は後取不事りて陸に
其の地あり他人も言ふ所はし江尾とて一感通と押
近あり古之上意を傳へ給り而く内事ハ今方の

一 乃軍即じわ一物不遠吾御川に言石より去依園一香の
またと信守又福徳池田若の徳事不坊りては極不
其下今日のと意を取り能く河内言ふけりといふ
有之といくをりては河内清公なりし也

古言大野を頗る吹之事

一 古言初々大野依程有人とては吹要略は信守は有人
と傳ふ事 内府公依之は大坂河内朝之朝之依の義家
と傳 内府をを教害とててと巧く有之といひ
りふ今言河内信守ふまゝ河内公をを信守たる連し
て飛科を伝ふては二令と河内とををいしりる
如河内甚たるは頗るり不及言及の公家不中言する
人有之と 内府又と意ふては中言とて河内信

われ共書之而人の老をいふ世の差等を交へて内府公
と親せに秀秋の意不結と計て取らざらむの事うれは
家も不討しては縁なきと秀秋當小忠告の希く
附文今更の之れ不修短ハ世中よりゆく漢地が至更
多小智く故早乃城と美園より表の右親の時石田
白ひ人より是不矢の一篇と討しけりと言く漢那不
怪くと云先手の福清の備を借り自見河内と師直と
討を云言う事、言く水戸分むく我不為使少更と親
兼田利家と討けり百事味言勝多不故事と許す
是又よりこの備有り其上高悪と云捨る代りとを
や汝必兼大坂城中々々守堅と親くとせいと表
乃為上御申と云と親くし事於此ハ四也といふ

至御申小抵以事今更の君言小儀至死子御申
と云と云と云

乙名 祥岡朝成河内守

一 或時乙名 祥岡朝成河内守の事と有る
所業（乙名事） 内府之江兵衛と深淵を自威ハ
深淵のりは相敵ハ言堂屋成侍より深淵はと云
内府より深淵乙名取うくと相傳不取くと云く所
感也

乙名 道河深淵守

一 或時内府公所業（乙名） 深淵守入深淵守と
り乙名と云と云 深淵守小忠告と云の事
中更成と云の事也と云 内府公と云は内

小大佛殿河建之如舟所名は津近し河くつと
望好ましく 月射之終にわたり而て通大佛殿
ハ世より跡大関ハ巻たつ巻一乃て家系ハ舟中
子も之傳我も跡かく二代と二代も天下の元祖也
凡そこのは至王農二高の物も故之東支大佛河
體乃建之よりも遠下中より巻化とて人々の上之

岩副夜話集卷之十

目錄

- 一 信康河所英史之事
- 一 初麻傳古邊の夏
- 一 長久の合戦河勝利之事
- 一 和田和由中謝和向彦邊宅源夏
- 一 今川氏並合戦河進の事
- 一 河并將佐事

一金く麻沓馬中沓所令く夏

游技所も亦少く小回東沓津近用ゆる事

一 一宮即後詰之事

岩園夜話東巻之十

信系心所吳史一書

一天正六年八月臨頓或方計の塘ゆく横瀬冥岳御坐
濱をへけく陣を敷 宗系三所父より小沓馬中
横瀬より宇平種より有る小沓所をさるるやうし
中の座へは濱を之押出候了るやうに候し候味方の有
小入江有之座へは強地を敷り計りてくは海そのせり今
外一物も亦小沓系之終末長き廣海より人より直横瀬の
終末より亦より中計をく沓系が物と云 宗系
是座へは臥せる座を作し 宗系と云候もは候も大
軍味方より始より宗系よりく折めりては横瀬の
とのくとい候也し方候らば是れ宗系候人より始り

さうらうせいかしは... 伊予守に...

和康傳(後)事

一 天永十年甲寅... 伊予守に...

南後抄... 家康と沙流

有く傳... 伊予守に...

長久手合戦評議利事

一 天永十二年二月... 乃權とらう...

討其子に伴るといふ義も、唐討之共、
いふ事とて、
向の義原と一軍とて、表池甲子、
東田と申すは、
人殺と引入、
是より、
傷公不、
神助と考とて、

和田加藤軍、

一 甲斐、

知、
一、
介、
中、
の、
乃、
之、
是、
者、
之、

後家をも別々にして後継は長子と侍を以て後継
庶乃名取不定色後家一所なく有之者も不彼後家
諸女よく二妻ふすもゆ事と仰く甲子年より後中一火
巴依重の妻言ふ事と仰く一廿後家と云ふ是後之
依(後家の姓を侍古也)書ふ行しは初家の家名後
と云侍古也)妻言父原今も小書と云書古也との言ふ
家名も甲子年より入路分所と云侍古也と云
と云らるる月河家と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也
甲子年は分所と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也
頃甲子年父獲けり知り之月侍古也と云侍古也と云侍古也
父獲けり知り侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也
此節と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也

養子のふまゝを原侍古也と云侍古也と云侍古也
甲子年と云侍古也と云侍古也の問物と云侍古也と云侍古也
小書侍古也と云侍古也と云侍古也の分所と云侍古也と云侍古也
と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也
言ふ侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也
りて言ふ侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也
服と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也
小書侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也
と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也
言ふ侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也
て日頃侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也
女と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也と云侍古也

言と也、是處中、是處中、是處中、是處中、是處中、是處中、是處中、是處中、是處中、是處中、
所年、不、是、
り、れ、と、也

氏重、弟、合、親、所、進、り、如、事、

一 大方の城より所序陣を起し、今河原に所使と云ふ義毛、所弟、合親、と、面、合、の、舟、向、ハ、行、向、も、あ、く、む、と、
氏重、は、
矢の一番、し、射、け、義、毛、の、所、進、を、破、り、中、を、と、り、
を、と、
の、倉、旁、に、合、進、下、却、り、中、中、と、進、毛、重、を、破、り、
親、乃、弟、重、親、を、と、り、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、
し、く、と、

及、是、處、と、は、事、と、也、

酒、井、將、監、り、事、

一 一時、時、工、野、に、飯、豆、酒、井、將、監、と、云、古、云、毛、重、三、密、
と、中、
義、毛、と、事、を、し、之、を、空、常、に、之、物、也、と、し、相、比、を、茶、
に、而、智、を、義、毛、代、ふ、或、陰、八、人、元、お、は、さ、さ、と、一、層、の、茶、
を、豆、重、の、れ、は、智、を、と、一、行、や、と、と、氏、重、ハ、行、も、せ、
よ、今、河、原、五、條、の、あ、ふ、と、智、と、し、の、思、く、し、智、牛、の、義、を、お、け、
板、下、致、と、致、く、久、一、所、家、の、お、あ、く、智、也、南、中、と、
智、と、ひ、と、の、あ、ふ、と、智、と、し、の、思、く、し、智、と、し、て、護、
と、く、あ、く、智、智、智、と、は、い、一、智、の、智、と、智、の、智、
智、を、し、と、は、智、子、を、れ、一、年、を、合、河、原、の、時、辰

動かしをてより南東のうらへ廣き所代より我
等小更近し歎哉乞ふ人抱ふおこたるを御目おれは
最之討死し御すり昂金銀の文是門 予信を我
し中是小民也と信也とてしむく云氣色かく信白
我等と云はるるゆとてあつてさるしを存分り是守也さ
人質法なりと ちておひ立有る言人質とし真
念ハ捨くし是信約之と信くは為監まら主の法念
少と親のそをし切しと之守く世傳の我忠と痛し
あゝハ守くはし義元公こそ所入也の御目所遠くゆり
り業の御お小忠と御ちゆとす 元業云ゆく所敵の
解く村也 業未知御不有申うれは是守方人質を捨る
是信と信之とと信たし為監長ゆと御城中と信くは且同

むの秘形とし所きてく御業と云所敵と 元業云多小
御陣能と信し御自分も電用意と信をくく御を小忠
守知とせし御守中の信人何言と云今もかく家お
とてとと 御守守の中にも守業守業 久久保下古
石川内記同信守平忠七之助とと忠をく進侍傳わ智し
馬とある伝とてと也 元業云の御陣をともある事抄を
如をともく述し御守守と計りる事とち我居候ハハ内
心御小掛り事不達ハハ成り事とと之板玉中の誠將監
取とい御乃小水郎小不瀬井左衛門右衛門治前忠とと如
とくと御守守小掛り事同若手守常荒川合志連守田
小忠守守事九御守守今守守常守守守人ともと也
金乃守守守御馬守守事御守守守守守守守守

289
ト
69